

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月13日			
平成15年度	事業コード	11130	電話	042-769-9222
担当部課名	保健福祉部	地域福祉	課	福祉推進 班
事務事業名	福祉月間事業（市民福祉の集い開催費）			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくれます	事業開始年度
基本施策名	第1節	福祉文化の創造とバリアフリーの推進	63以前年度
施策名	第3施策	バリアフリーによる福祉のまちづくり	

2 実施根拠及び関連法令等

福祉月間実施要綱、第20回市民福祉の集い実施要領

3 事務の区分

自治事務	4 経費の区分	5 事務事業の分類	6 受益者負担
	その他の経費	市単独事業	なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
福祉月間事業の一環として位置付け、市民の福祉に対する理解と関心を深めるため「市民福祉の集い」を開催することを目的とする。	参加者
	対象数 900人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
1.開催日 平成14年9月22日(日)	
2.場所 市民会館ホール	
3.内容 第1部 表彰式（社会福祉功労者、福祉ポスター・作文入賞者） 第2部 福祉のまちづくり講演会 講師：樋口恵子 演題：元気が出る家庭・地域とは～くらしから広げる福祉のまちづくり～	
4.参加者 900人	
5.事業費 総事業費 223千円（需要費 218千円、使用料及び賃借料 5千円） *市民福祉の集いは、相模原市と相模原市福祉のまちづくり講演会との共催で開催しています。	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	
計画年次	年度～ 年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

	指標名	指標式	指標設定の意図	15,16年度は目標値 指標の推移(年度)				
成果指標	参加者の福祉に対する意識向上率	参加者全体の理解度・満足度 ÷ 参加者数 × 100 (数値化不能)	参加者全体の理解度の平均値により、福祉に対する意識アップの度合いをみる。	12	13	14	15	16
活動指標	参加意識率	(応募者数 + 受賞者数) ÷ (募集数 + 受賞者数) × 100	参加希望者等の増減により、福祉に対する意識の度合いや集い開催による参加者への影響の度合いをみる。	112	93	59	73	91

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	362	304	223	309	309
	人員・時間数	881	889	884	879	874
	人件費	3,170	3,204	3,180	3,159	3,138
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	3,532	3,508	3,403	3,468	3,447
特定財源	0	0	0	0	0	
対象数	1,035	950	900	1,000	1,200	
対象の単位あたり経費	3.4	3.7	3.8	3.5	2.9	

10 個別評価

(1)達成度 評価 B ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	参加者の福祉に対する意識は向上していると思えるが、参加者増を目指すことにより、活動指標の数値を高めていく必要がある。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 福祉月間の中心的事業であり、市の福祉分野の表彰式を兼ね、未受賞者の今後の活動の目標になることが考えられることから必要性がある。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		
		説明	行政が市民に対し、福祉について考え、参加する機会を与えることにより、市民が更に福祉に関心を持つことを想定しているため、有効と考える。
(4)効率性 評価 B ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 集い当日の受付等事務は短時間に複数の作業を要するため、担当者以外の職員の動員を要するが、ボランティアにも受付等を依頼していることもあり、ほぼ効率性があると考え。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	対象者が全市民から応募のあつた参加者であり、参加方法については広報にて周知していることから、公平であると考え。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明: 参加者に対しアンケートを行うなど、時代に即したニーズに対応する。	手段	社会福祉協議会で開催している「社会福祉大会」と統合し、双方の事業を集約することにより人件費他の削減が可能と考える。但し、各事業の位置付けが異なることから、実現させるには、綿密な調整が必要となる。
		削減額	千円

11 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較
	本市では、市と相模原市福祉のまちづくり推進協議会の共催で「市民福祉の集い」を、社会福祉協議会の主催で「社会福祉大会」を開催しているが、横浜市、川崎市及び横須賀市では、社会福祉協議会と共催により同種事業(表彰及び講演会等)を開催している。なお、横須賀市では、同日にさまざまな福祉関係の事業も開催している。	
今後の進め方		
<input type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明 本事業は、市民の福祉に対する意識の向上を図るため今後も必要である。しかし、常に事業内容を検討し、事業費削減を念頭に入れながらも、参加者数を高め、意識の向上を図ることが必要であるため、今後は、社会福祉協議会が行なう同種事業である社会福祉大会との統合についてを検討していく。
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

他の同様の事業との統合など、開催方法を検討すること
